

日本

伝統色

調べようと思った理由

糸会が好きなので色々な色を調べてみたいと思いました。

2017年から2020年までに発売された切手集伝統色シリーズ(メロカリ)50まいを使い、この色ごとにグループ分けして由来や時代のこと、その色を使った伝統工芸や世界の切手を調べました。

堀江稜之助

青

青の伝統工芸



濃あい

濃いあいいろ。「あ」は人類最古の植物染料といわれています。退色しにくく虫よけにもなれます。



糸井ペキ

真夏の日差しが強い青空のような深く濃い青色。海外では「ラピスラズリ」を使、た色です。



はなだ色

「あ」だけでえめた青色の代表。「日本書紀」にすでにこの色が登場しました。

うす君羊青

君羊青色かうすくな、た色。群青は日本画に欠かせない天然の青色で、むらさきから、ています。

うす水色

うすいみどりやをぶくんだ青。水色、空色、草色など自然の色、平安時代にたに定着しました。



あわほうあい しらおり

明治のはじめに、ました。着物が雨にぬれてそのまゝかわかした戸、ちぢんだことがきっかけで出来まし



せとそめつけき

愛知県瀬戸市周知で作られる、きものです。こまかいからかしくなっています。

江戸石硝子



とうめいなガラスの上に色のついたガラスをかさねてかるとすると白くもようがうきえる方法で、作られています。

世界の切手



ギリシャ1973年

ホルンをデザインした切手といわれています。

ポーランド

1968年の切手でグライダーがデザインされています。



むらさき

伝統工芸



すかれ色

あざやかなむらさき色。英語の「マゼンタ」の和名として明治、大正時代に流行しました。

加花花織・沖縄県

日本郵便



80 NIPPON

矢口花おり

沖縄市などを中心に伝わったおりのひりょうきょうあいでめられた糸甘色にかすりやチェックのからか持ちょうです。



あずき色

くすんだ糸赤色。赤はもともとまよけの色でお粥のとき赤飯を食べるようになった。

東京アンチモニー工芸品・東京都

日本郵便



82 NIPPON

東京アンチモニー工芸品

なまりをベースにアンチモン、すずをまぜた合金のことをアンチモニーとよびます。明治のはじめに東京で技術者が確立しました。



白群羊

白っぽい青色。アスライドという石をもと糸田がくたくたに作ります。

世界の切手



コロンビア

カンビアという音楽の衣はうとリズムがかかれています。



紺青

色のこいむらさきがかった青色。別名「金青」と言い、奈良時代の文書にも出る古い色名です。



ハンガリー

1963年の切手。中国の切手がデザインされています。

赤・ピンク

世界の切り紙



もみじ色

真赤に色づいたもみじのような赤。近年では、秋が矢張りなくなりもみじが染めなくなるかもしれません。



ひ色

「アカネ」をせんじた汁に「アヲ」を加えて煮めた。あざやかな黄みの赤。色名としての歴史は古く、大化3年には、4番目に身分の高い色に記されています。



萩色

萩の花のようなあざやかな赤みのあざやかです。萩は「万葉集」に最も多く詠まれる植物で、140首以上あります。



紅梅色

奈良時代までは、お花見といえば、梅の花でした。紅花で染める明るい紅色です。



桜色

満開の桜のようなあわい系紅色で、平安時代から使われた色名です。

江戸時代より前は桜といえば「ササヅク」でした。



エクアドル

1967年のクリスマスの切り紙。ギターを弾いた様子（多分）



アメリカ

2012年のバレンタインの切り紙。白いリボンで「LOVE」とかいてあります。

伝統工芸



80 NIPPON

紀伊川漆器

和歌山県海南市を中心に生産されています。お寺のろうそくが作られたといわれています。

宮城伝統こけし・宮城県



80 NIPPON

宮城伝統こけし

江戸時代末期ごろ温かい土地で子どものおもちゃとしてはいりました。

オレンジ

世界の切手



朱色
まよけと権力を表す赤の代表色。
神奈川の島屋や印かんの朱肉に使
われる色です。

ポーランド



1992年に発行さ
れた15世紀
のポーランド
の国章。市地

柿色



柿色には、柿しじみでそめた
柿しじみ色と柿しじみとあんから
でそめた団十郎茶柿しじみ色も
あった。照柿色があります。



オーストラリア



1985年の
クリスマスの
セウキ船台
に乗った天使
とうろくが
デザインされ
ています。

人蔘色



人蔘は中央アジア原産で日本に
は室町時代に東洋系が売られ
ています。

伝説工芸



熊野筆

広島県、安芸郡
で作られる筆で
江戸末期から作
られるようになり
た書道の筆や
茶会筆だけでなく
化粧にも使われてい
た。

曙色



美しい明け方の空のよう少し黄
みがかったピンク色です。江戸
時代中其月には「しのめ色」
とロクされ、流行しました。

くり色



くりの実の皮のような赤みの強い
暗い茶色で江戸後其月の
色と言われています。茶色い馬の
ことを「くりも」と言うのは平安時代
には定着していたそうです。



江戸七刀子

こう明なかラスの上に
色のついたガラスをか
せ、カットするともよう
を作ります。東京の江
戸切子の他、鹿児島
島のさつま切子
も有名です。

茶色

伝統工芸



焦茶色

物が焦けたような黒っぽい

茶色。江戸時代は「粋」な色として人気でした。



煤竹色

煤けた古い竹の色室町時代があり、江戸時代には大流行しました。

くすみ色



くみは縄文時代から利用されていて「源氏物語」にも登場します。

砂色



明るい灰色がかた黄色に近代になって出来た色です。

描木卵色



くすんだ淡い黄色。春に銀白色の花穂をつける描木卵の色です。

うぐいす色



うぐいすの羽のような少し暗く、くすんだ黄緑色です。

色の名前がついたのは、うぐいす色流行した江戸時代です。



アトウシ

オシロイなどの木の皮から、作た糸を使って、おた有伝統的なアイヌの服などが作られています。



そろばん

兵庫県は、日本で最もそろばんがたきさん作られる場所です100以上の工務屋があります。

世界の切手

スペイン
七刀手



山、川、木がえがかれた七刀手です。

ポーランド



1969年の切手で「ジャコブス・トリ」という犬です。

まいろとベージュ

しゅもろこ色



しゅもろこしのみ色です。この色が使われていたのは江戸時代安永・天明期(1772年)ころ、灰色や茶色が多かった時代の中で、とてもよく目立ちました。

世界の草



リーリアのちかきで、松ノ平入た植物が、かかれています。

玉子色



玉子の黄身の色です。玉子色という名前は、江戸時代からの物で、玉子のからの色は、「鳥の子色」といいます。

枯草色



草木の枯れたような、浅い茶色です。江戸時代には、花見、モミヅカリと同じように、朱古木野見と言って、枯れた草を見物しました。

小麦色



小麦のつらのような、やや赤みのある黄色です。小麦は、うから4世紀に日本やってきましたが、色の名前になったのは、近代です。日焼けした色は、小麦色と言います。

江戸ベージュ



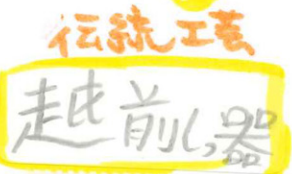
江戸幕府が開かれたころ、カメのこうらに、糸田工をしたものが、女台まりで、その後、はり合わせの技法が、云えられ、かいた、カシカイ作るようになりました。

きいろ

濃卵



赤みがかた濃い黄色です。
卵黄色よりも濃い黄身の色です。



82 NIPPON

福井県の
伝統工
芸で金を使
います

山吹色



山吹の花のように赤みの多い黄色です。
平安時代からの色名で、花は万葉の
ころから和歌に詠まれています。

うこん



うこんの根、子の色素で、染めた、濃い
黄色です。インドではサンスクリット語で「クルクマ」といい、最古
の黄色染料として知られています。

黄金色



赤みがかた黄色です。仏教では「こんじき」とよび
最高の色として、仏像や、お寺のかがざりに使われます。

向日葵色



向日葵のようなあたたかみのある黄色です。
日本には、江戸時代中期に伝まりました。



リベリアの切手で
サイキウという鳥

きみどり

伝統工芸

尾張 七宝



若草色

芽吹いた草のようなあたたかな
黄緑色で、平安時代の歌
集にも春を表す色として「青柳」ともよく登
場します



木卵葉色

木卵の若葉のようなあたたかな黄緑色で
桜色とともに日本の春を代表する色です

ひわ色



ひわはスズメのイ中間で黄緑
色の羽が特徴で、すうぐいす色
よりもひわ色の方があたたか



若芽色

緑色で「若」がつく色の名前は
若菜色や若葉色などがあり
ますがその中で若芽色は色が
薄く特に若々しいと感



抹茶色

抹茶にはこい茶と薄茶に近い
色です。茶道は安土桃山時代に千利休
により完成されました。



わさび色

明るくいい緑色です。わさびが一般的に食べられるように
なしたのは江戸中期以降で、それ以来少しずつその色に欠か



愛知県あま市
名古屋市一帯で
作られる焼き
物です。七宝
を散りばめよう
ように美しいとい
う意味で七宝
とされています

ハンカチ



1967年のドナウ委員会第25回の
キューバ 記念切手です



1963年の切手ソビエト連邦の
ポストカードと飛行機デザインさ
れています

世界の切手

・みどり・ 伝統工芸

まがも色

まがものオスの豆目のつやのある
糸緑色にちなんだ色名です。
はんよく其月になると首から上の
色が変わり、あいろいろ/まい色
にも見えます。



あさぎ色

あいぞめで染めた糸緑がかた
明るい青。江戸時代ではあさぎ
色はタサ色の代表になってしま
いました。それは、なか侍の着物
の裏地によく使われていたため



世界の

美濃和糸氏と土佐和糸氏
岐阜県美濃和糸氏、高知県
の工佐和糸氏は、福井県の
走馬前和糸氏と並んで日本の三
大和糸氏と呼ばれています。



西ドイツ

1972年に発行された切手
たこの星がデザイン
されています。

若竹色

日本は古くから竹が育ちられてき
ましたが、竹か色名になったのは
近代に入ってからです。竹は成長が
早く、すぐ伸びるため、えんき物とされています。



七手

糸緑青

くじゃく石(マラカイト)をくたい作るこい青糸緑
です。日本には飛鳥・奈良時代に
伝えられました。



ルーマニア



1962年に発行さ
れた七手ハのう
しろに宇宙探査の
切手がデザイン
されています。

松葉色

松の葉のようなくすんだこい緑
色です。松は日本各地で好
まれており、糸緑色の代表として
古くから使われています。



千とせ糸緑

千とせとは千年、つまり長い年月のことです。松は1年中
葉の色を変えることなく長生きすることから
長生のシンボルになっています。



白

黒

伝統工芸

石どうろう

雪白色



雪のような白。似た色に
「鉛白」があり金台を使った
毒のあるおしろいの色です



茨城県、直方、地方
は質の良い花こう岩が
採れることから古くから石を
加工してきました。

月白色



うすい青をふくんだ白。
元々は、器の色として
使われていました。

すず器



大阪、なにわすず器
は、大阪市周辺で、作れる。
金工品ですすずはやわらかく
木幾木戒での加工が、むず
かしいため、手で、作られ
ています。

消炭色



灰色ほど黒くなく、
オレンジがかった灰色。
明治より後についた色名
とされています。

東ドイツ

セリ手



「ハロルと花女家」というセリ手
です。

漆黒



黒うるしのように、ツヤ
がある黒です黒の中でも
最も黒い黒色です。

ハンガリー



ハンガリーのセリ手。
でソートからこいいて
す。

感想

色は、「いい」「うすい」「あつ」で作られてると思てたけど、
調べてみたら他にも面白い色とか不思議な
色もたくさんあつたし、「色」ですごい量があつておもしろい
と思いました。

自分の好きな色は、うす水色です。
理由は、かわいらしいからです。

50色調べてみると木直牛物の名前や食べ物牛物の名前が
多く使われていることが分かりました。



うす水のセリ手
のクラゲの絵をかきました
※じさいに使った色はうす水
色ではありません